

JGS 関東 新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会
第2回 議事録

- 日時：2018年12月12日（水） 14：00～17：00
- 場所：地盤工学会 地下会議室
- 出席者：桑原（パイルフォーラム）、青木（竹中）、加倉井（パイルフォーラム）、阿部（東京ソイル）、柏（国総研）、片山（東邦地下工機）、小坂井（MFR）、西（安藤ハザマ）、三反畑（安藤ハザマ）、古垣内（東急）、張（東急）、嶋田（大林）、森（熊谷）、福田（戸田）、長澤（清水）、栗本（清水）、原（西松）、伊藤（東亜）、小林（大成）、高岡（三井住友）、梶野（長谷工）、土屋（竹中）、宮本（東洋テクノ）、木谷（三谷セキサン）、田中（大洋基礎）、小川（旭化成）、細田（ジャパンパイル）、山下（不動テトラ）、菅原（丸建興業）、大平（八州建機）媚山（新潟商事）、山本（地盤試験所）

記録者：阿部

注：____欠席

- 配布資料（マイポケット）：下記のフォルダーにアップされた。
NTT クラウドサービス「マイポケット」 <https://mypocket.ntt.com/mypocket/login/>
ID：kuikantou PS：kuijiban
→〈ファイル一覧〉→〈20181212 既存杭撤去第2回研究委員会〉

提出資料：

2-0_JGS 関東既存杭撤去第2回議事次第 181204.docx	（青木）
2-1-1_第1回既存杭の撤去に関する研究委員会_議事録（案） 181018.docx	（青木）
2-1-2_H30_新設杭委員会名簿_181122.xlsx	（青木）
2-1-3_既存杭撤去研究委員会委員構成案 181122.xlsx	（青木）
2-2_WG1 資料（既存杭引抜工事資料資料・H30.11.27）.pdf	（媚山）
2-2-2_WG1 資料（CD機による障害物撤去工事説明資料）.pdf	（大平）
2-3-1_WG2 第1回議事録（案）.docx	（古垣内）
2-3-2-1_事例調査フォーマット（例）.xlsx	（古垣内）
2-3-2-2_（例）東急-1-1-施工フローチャート.pdf	（古垣内）
2-3-2-3_（例）東急-1-1-Bor..pdf	（古垣内）
2-3-2-4_（例）東急-1-1-埋 Bor..pdf	（古垣内）
2-4_WG3 資料.pdf	（宮本、木谷）

■ 議事次第

1. 前回議事録確認（青木）

P.3に新設杭の性能設計はWG4（新設）と変えてあるが、WG3で行っていく。

2. WG1 既存杭の撤去法、埋戻し法に関するプレゼンテーション

既存杭撤去の業界団体が、かつては3団体（既存杭引抜研究会、既存杭引抜工法協会、地中埋設物撤去協会）あったが現在では2団体に統合されている。

（1） 既存杭の撤去法に関するプレゼンテーション

（2） 既存杭の埋戻し法に関するプレゼンテーション

- ・埋戻しの施工記録は発注者から要求されないのか？

⇒要求されない。そのため、記録が残っていないケースもある。

・工法名を一般的な名称にしていきたい。

⇒学会としてまとめる際には、一般的な名称にする。

・工法ごとによくあるトラブルやリスクを評価できるようなまとめをしてもらいたい。

・埋め戻した地盤の調査をした事例はあるか？

⇒ない。

・流動化処理土による埋戻しはどこが問題か？

⇒泥水に弱い。材料分離してしまう。セメントミルクの方が調整しやすい。

・遅延材を用いる目的は？

⇒引き抜きに数日かかる場合もあり、時間調整のため。

・広く使えるような引き抜き工法に関する分類表を作成したい。

(3) オールケーシング工法のプレゼンテーション

・工法の長所と短所を取りまとめたい。

3. WG2 現状の説明

・第1回 WG2 議事内容の説明（古垣内）

・埋め戻し材の強度や品質の評価が問題である。文献をなるべく多く収集したい。

・埋め戻しの調査事例を収集したい。サブワーキングは設けない。

・調査票のフォーマットを作成する。

・フォーマット案の説明

・工法名を確定しないとフォーマットができないので、工法名を確定する。

・WG3 でもこのようなフォーマットが必要である。

4. WG3 現状の説明

(1) 調査票の説明（宮本、木谷）

・WG3 でも調査票のフォーマットを試作した。

・トラブルへの対処法に関する資料はあるか？

⇒対処に当たっては施工計画書を提出して承認を受けるので、その時の施工計画書がある。

⇒WG2 の調査票と WG3 の調査票は、依頼対象者が違うので、それぞれ進める。ただし、WG2 の調査票の方が詳細なので、WG3 と同じ項目は WG2 でも使えるように揃える。

5. 役割分担について

・設計法に関するまとめも WG3 においてやって頂きたい(設計というよりも性能評価である)。

・参考文献及び調査事例を議論・整理し、マニュアルの骨子を固める方針とする。

6. その他

・そのままでは外部に公表できないものでも、事例の調査、資料整理を行いたい。

・学会の支部長、委員長名で調査への協力を依頼する文書を作成して、協力要請をする。

・今後のスケジュール

次回 日時 2019 年 2 月 13 日（水）予定 場所 地盤工学会

次々回は 4 月末ごろ予定（次回委員会で決定）

以上